

【理学部】令和6年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

学部長、副学部長、学科主任、学科教務委員、学科自己点検・評価委員で構成する教学マネジメント委員会を設置している。この委員会は役職に紐づいたものではあるが、年度途中で物理科学科と宇宙物理・気象学科で学科主任が交代し、メンバーが入れ替わったことを報告しておく。いうまでもなく、引き継ぎは万全に行われた。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

① カリキュラムマップ

令和7年度の実装に向けて主要授業科目とアセスメント科目を設定した。主要授業科目全体の集合を、「理学部コア科目」としていた科目全体の集合に特別研究をつけ加えて構成した。アセスメント科目は、各学科の低学年の必修科目と特別研究を中心に構成した。

② シラバス

シラバスへの「8つの資質・能力」の実装は完了している。さらに主要授業科目については、最初の授業で、到達目標や評価の方法を説明するようにしている。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

研修会に参加して、カリキュラムツリーの組み立てを再検討した。理学は組み立てがしっかりしているので、特にこれまで通りで問題ないことがわかった。

課題

新入生対象の履修ガイダンスでは、これらのことをしっかりと説明しているが、盛りだくさんになりすぎていて、新入生の頭に入りきっていないのではないかとと思われる。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

学習成果実感調査の回収率向上のため、授業内で実施するようにさらに呼びかけ、実施をしてもらった。卒業時アンケートの回収率向上のために、事務から頻繁に経過報告をしてもらった。低単位の学生に対して面接を行う中で、特に課題のある学生の学習成果の把握を行なった。

課題

卒業時アンケートの回収率向上には苦戦したものの、アンケートに答えることでメリットがあるような仕組みづくりが功を奏していたように思える。しかし特研で完了できない場合、卒業を控えた学生に連絡が取りづらいことが課題である。低単位の学生が呼び出しになかなか応じない点も課題である。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

概ね良好であるが、一部の科目で高い単位未修率が見られ、到達目標に達していないことが伺える。

課題

シラバスに授業の到達目標を丁寧に記載したところで、そこに書かれている概念は授業開始時には学生にとって定義レベルからわからないことが多い。例えば、「特異ホモロジー群のホモトピー不変性を理解する」などと書かれていても、定義からして不明であろう。しかも、その説明を行うには、相当の準備が必要である。科目選択の時にシラバスを参照することは当然であるが、記載内容を理解できているとは言い難い。学生が常々授業とシラバスとの往還を行うことで、往還目標を明確にした学びを行うような声かけが必要である。その点を授業担当者に向けても周知する必要がある。

アセスメントプランの取り組み

① 結果

前述のように、アセスメント科目を、各学科で低学年の必修科目と特別研究を中心に構成した。

②課題

宇宙物理・気象学科のアセスメント科目では「幅広い教養」がカバーされていない。もちろん、共通教育科目を通して、カバーされているところではあるが、今一度再考する必要もあろう。

※この内容は令和6年度以降、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP への掲載を検討します。